

Chapter 13

単語・熟語数：106

文法のテーマ：助動詞（現在形）

動詞と共に用いて動詞の意味を補助することばを「助動詞」と呼びます。助動詞には、be、do、haveのように、それ自体は意味を持たず、動詞と結びついて疑問文、否定文、現在〔過去〕進行形、現在〔過去〕完了形、受動態などの文法上の形を作るものと、will、can、must、mayのように、動詞の原形と結びついて「意志」「可能」「義務」「推測」などの意味を表すものがあります。前者のタイプはChapter 2（文の種類）とChapter 3（時制）で学習しましたので、このChapterでは後者のタイプについて学習します。

Lesson 139

👉 助動詞の基本

助動詞には次の3つの特徴があります。

- (1) 助動詞と共に用いる「動詞」は必ず「原形」になる。

I will be 30 in October. (私は10月で30歳になります)
原形

Can you do it? (あなたはそれができますか?)
原形

- (2) 助動詞の中には「過去形のないもの」がある。(－は過去形がないもの)

現在形	過去形
will	would
can	could
must	—
may	might
shall	should
ought to	—
need	—

- (3) 助動詞の過去形は必ずしも過去を表さない。

現在形	過去形
It <u>may be</u> true.	It <u>might be</u> true.
(それは本当 <u>かもしれない</u>)	(それは本当 <u>かもしれない</u>)

(注) might は「…だったかもしれない」という過去の意味にはなりません。

また、**日常の会話では、短縮形のある助動詞は短縮形で用いるのが一般的です。**
 次の表の「短縮形」が瞬時に言えるようにしておきましょう。

肯定形		否定形	
	短縮形		短縮形
can	—	cannot/can not	can't
could	—	could not	couldn't
will	'll	will not	won't
would	'd	would not	wouldn't
must	—	must not	mustn't
may	—	may not	(mayn't)
might	—	might not	(mightn't)
shall	—	shall not	(shan't)
should	('d)	should not	shouldn't
ought to	—	ought not to	(oughtn't to)
need	—	need not	needn't
had better	'd better	had better not	'd better not

(注) () の形はあまり用いられないので特に覚える必要はありません。

would の短縮形は 'd ですが、'd は had の短縮形でもあります。'd がどちらの短縮形なのかは、後ろに置かれていることばで判断します。

'd Vb 'd have Vp.p.	'd は would の短縮形
'd Vp.p. 'd better	'd は had の短縮形

Lesson 140

👍 will の使い方 : 単純未来

ここからは、各助動詞の使い方を見ていきます。まずは **will** (短縮形は 'll) の用法についてです。will には大きく分けて2つの意味があります。

単純未来	(今後・未来において) …する、…になる
意志未来	(今後・未来において) …するつもりだ

(注) will は未来の確定的なことを述べるのに用います。よって、「…するだろう」よりも「…する」「…になる」の方がより正確な和訳です。

このレッスンでは、「**単純未来**」について学習します。この用法は、ある行為や出来事が未来のことであることを示すためのものです。例えば、動詞の現在形を用いた次の例文は「**現在**」のことを述べていますが、

① I miss you a lot.

- ⇒ 私は (今) 恋しく思っている・君を・とても。
→ 君がいないのが、とてもさみしいよ。

これに will を付けると、「**未来**」のことになります。

② I'll miss you a lot.

- ⇒ 私は (未来に) 恋しく思う・君を・とても。
→ 君がいないと、とてもさみしくなるよ。

否定形 (will not/won't) は「**未来に**…しない […にならない]」という意味です。

③ Maybe this time you won't be so lucky.

- ⇒ たぶん・今回は・君はならない・そんなに幸運には。
→ たぶん今回は、そんなに運良くはいかないだろう。
* will/won't の持つ「確実性」は、maybe、perhaps、probably のような「たぶん」という意味の副詞を添えることで、弱めることができます。

④ I won't be able to make it on Wednesday.

- ⇒ 私は (未来に) ならない・できることに・都合をつけることが・水曜日に。
→ 今度の水曜日は都合がつかません。

●● NOTE 名詞節での will の使用

時や条件を表す「副詞節」では、単純未来を will ではなく「現在形」で表します (Lesson 131, 134 [NOTE])。しかし、これは when や if が導く「名詞節」には当てはまりません。次の⑤の下線部は「副詞節」なので未来の行為を「現在形」で表していますが、⑥の下線部は「名詞節」なので未来の行為を「will」で表しています。

⑤ Do you mind if I turn up the heat a little?

✕ Do you mind if I will turn up the heat a little?

副詞節「もし~なら」(自動詞 mind を修飾)

⇒ あなたは気に障りますか? ・もし以下ならば・私が上げる・温度を・少し。

→ 少し温度を上げてもかまいませんか?

⑥ Do you know if they will be back in the near future?

名詞節「~かどうか」(他動詞 know の目的語)

⇒ 君は知っているか? ・以下かどうかを・彼らが戻ってくる・近い将来に。

→ 彼らが近い将来戻ってくるかどうか、知ってる?

●● VOCABULARY

<input type="checkbox"/> a lot	副 ((口語)) とても、たくさん (同 very much)
<input type="checkbox"/> maybe [méibi:]	副 たぶん (同 perhaps)
<input type="checkbox"/> this time	副 今回は、今度は
<input type="checkbox"/> so	副 そんなに、あんなに、それほど、あれほど
<input type="checkbox"/> won't be able to Vb [wóunt]	慣 (未来において) Vできない (*「can't Vb」でも表せるが、より厳密でフォーマルな言い方)
<input type="checkbox"/> make it	動 (都合を付けて) 会う [出席する、参加する]、時間通りに着く、目的を達する、うまくやる
<input type="checkbox"/> turn ... up	動 (つまみなどを回して) ...を上げる [強める] (反 turn ... down ...を下げる [弱める])
<input type="checkbox"/> heat [hi:t]	名 熱、火力、温度、暑さ 動 ...を熱する [温める]
<input type="checkbox"/> a little	副 少し (同 a little bit, a bit, slightly)
<input type="checkbox"/> be back	動 戻っている、復帰している (* will の後では come back (戻ってくる) と同じ意味になる)
<input type="checkbox"/> in the future [fju:tʃər]	副 将来において (*例文⑥の near は future を修飾) (反 in the past 過去において)

Lesson 141

👉 will の使い方：意志未来

このレッスンでは、前のレッスンの表で示した「意志未来」について学習します。日本語で「(私は)…します」と言う場合、しばしば、「…するつもりだ」「…しようと思う」という意志を表していますが、英語ではこれを「I'll…」「I will…」とします。will を付けずに現在形で表すと「いつも…している」「今…である」という現在の習慣や状態を表すことになるので注意してください (Lesson 21)。

① Just a moment, I'll check my diary.

- ⇒ 少しだけ待ってください・私はチェックします・私の手帳を。
- ➔ ちょっと待ってください。今、手帳を確認します。
- * Lesson 34 ④と Lesson 42 ④の'llも意志未来です。

② I won't let you have your way any more.

- ⇒ 私はつもりはない・させてやる・君が・もつように・君のやり方を・もうこれ以上。
- ➔ これ以上君の好き勝手にさせないぞ。
- * Lesson 43 ①の won't も意志未来です。will not という短縮しない形は意志を強調する場合に用い、通常は短縮形 (won't) を用います。

二人称主語の疑問文「Will you …?」は、「…する意志がありますか?」という意志未来が転じて「…してくれますか?」という依頼を意味するのが一般的です。

③ "Will you marry me?" "Yes, I will."

- ⇒ 「してくれますか?・君は・結婚することを・僕と」「はい・私はそうします」
- ➔ 「僕と結婚してくれるかい?」「ええ、いいわよ」
- * I will の後ろには marry you が省略されています。この will は意志未来です。

「Will you …?」は「…しませんか?」という勧誘の意味でも用いますが、この意味では否定形の「Won't you …?」がよく用いられます。

④ "Won't you stay for dinner?" "I'd love to, but I can't."

- ⇒ 「しませんか?・あなたは・このまま居続けることを・夕食のために」「私は
そうしたい・しかし・私はできない」
- ➔ 「このまま夕食はいかがですか?」「そうしたいのですが、無理なんです」
- * 'd (= would) love to と can't の後ろには stay for dinner が省略されています。

●● NOTE **will と be going to の使い分け**

日常会話ではよく will の代わりに「**be going to**」(くだけた言い方は **be gonna**) という「動詞句」をします。これは「…という行為 [出来事] に向かって進んでいる」という現在進行形で、will と同様、「**単純未来**」や「**意志未来**」を表します。次の⑤は「単純未来」、⑥は「単純未来」もしくは「意志未来」を表しています。

⑤ **At this rate, we're not going to meet the deadline.**

- ⇒ この調子では・我々は(未来に)ならない・間に合うことに・締め切りに。
→ この分では締め切りに間に合いませんよ。

⑥ **What are you gonna do over the weekend?**

- ⇒ 何を・あなたは(未来に)しますか [するつもりですか]? ・週末に。
→ 今度の週末は何をするの?
* gonna の使用例は Lesson 127 ③ も参照。
* 「be going to」の「意志未来」は「前から決めていたこと」を表し、例文①のような「とっさの (= 発話寸前に生じた) 意志」には使いません。

●● VOCABULARY

- | | |
|--|---|
| <p><input type="checkbox"/> Just a moment.
[móumənt]</p> <p><input type="checkbox"/> diary [daɪəri]</p> <p><input type="checkbox"/> have one's way</p> <p><input type="checkbox"/> any more</p> <p><input type="checkbox"/> marry [mæri]</p> <p><input type="checkbox"/> would love to Vb</p> <p><input type="checkbox"/> at this rate [reɪt]</p> <p><input type="checkbox"/> meet</p> <p><input type="checkbox"/> deadline [dedlaɪn]</p> <p><input type="checkbox"/> over the weekend</p> | <p>慣 ちよっと待ってください。(同 Just a second.)</p> <p>名 日記、((英) 手帳 (同 ((米)) appointment book [əpɔɪntmənt bʊk] 手帳)</p> <p>動 自分の好きなようにやる、わがままを通す</p> <p>副 これ以上 (同 anymore, any longer)</p> <p>動 …と結婚する (同 get married to)</p> <p>慣 (是非) V したい (同 would like to Vb)</p> <p>副 この調子では、この分では、このままだと</p> <p>動 <要求・条件>に合う [を満たす]、<締め切り>に間に合う</p> <p>名 締め切り、最終期限</p> <p>副 (今度の・この前の) 週末に</p> |
|--|---|

Lesson 142

👉 will の使い方 : 未来進行形

「will be Ving」という形は「未来進行形」と呼ばれ、次の2つのことを表します。

(A)	（未来のある時点で）Vすることになる
(B)	（未来のある時点で）Vしている最中だ

まず、(A) に関してですが、未来進行形は will のもつ「意志」(…するつもりだ) を打ち消し、「単純未来」の意味にするのに用います。現在進行形や be going to にも同じ意味がありますが、未来進行形はそれらよりもフォーマルな [改まった] 言い方で、交通機関やサービス業のアナウンスでよく用いられます。

① We will be landing shortly. Please remain seated.

- ⇒ 私達は (未来に) 着陸します・まもなく。どうぞ・ままでいてください・座っている。
- 当機はまもなく着陸いたします。席からお立ちにならないでください。

また、未来進行形の疑問文「Will you be Ving?」は単純な未来形「Will you Vb?」がもつ「依頼」の意味 (Lesson 141 ③) を打ち消し、「Vすることになりますか?」「Vなさいますか?」という「単純未来」の意味にするのに用いられます。

② Will you be joining us for this special occasion?

- ⇒ (未来に) あなたは加わりますか? ・私達に・この特別なイベントのために。
- この特別なイベントにあなたも参加されますか?
- * Will you join us ...? にすると「参加してくれますか?」という「依頼」に聞こえ、相手に参加を求めている感じがします。

次は、(B) の「(未来のある時点で) Vしている最中だ」についてです。これは、「今…している最中だ」という現在進行形が未来の一時点にシフトしたものです。次の例文では、下線部 (黒) が未来の一時点です。

③ Will you be sleeping at 11:30 tonight?

- ⇒ (未来に) あなたは眠っている最中ですか? ・11時30分に・今晚。
- 今晚11時半だと、もう寝ていますか?

④ I have no idea what I'll be doing ten years from now.

- ⇒ 私は全くわからない・何を(未来に)私がしている最中か・10年の時点で・今から。
→ 10年後の自分が何をしているのか、全く見当もつかないよ。

ちなみに、会話では、will の代わりに be going to を用い「be going to be Ving」と言うことがあります。例えば、例文③を **Are you going to be sleeping** at 11:30 tonight? と言うことがあります。

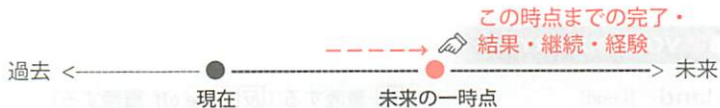
●● VOCABULARY

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> land [lænd] | 動 着陸する (反 take off 離陸する) |
| <input type="checkbox"/> shortly [ʃɔ:rtli] | 副 まもなく、すぐに (同 soon) |
| <input type="checkbox"/> remain [rimeɪn] | 動 …のままである (同 stay) |
| <input type="checkbox"/> seated [si:ti:d] | 形 着席している、座っている (同 sitting) |
| <input type="checkbox"/> join [dʒɔɪn] | 動 …に加わる、…に参加 [加入、入会] する |
| <input type="checkbox"/> occasion [ə'keɪʒn] | 名 場、場面、機会、イベント、出来事 |
| <input type="checkbox"/> have no idea 間接疑問文 | 動 <間接疑問文>がまったくわからない
(* idea の後ろに of や as to が省略) |
| [aɪdɪ:ə aɪdɪə] | |
| <input type="checkbox"/> … from now | 副 今から…後に (*「…」の前に前置詞は不要) |

Lesson 143

👉 will の使い方 : 未来完了形

「**will have Vp.p.**」という形を「未来完了形」と呼びます。未来完了形は現在完了形を未来の一時点にシフトしたもので、「(未来のある時点までに) V してしまっている」とか「(未来のある時点まで) V し続けていることになる」のように、「**未来のある時点までの完了・結果・継続・経験**」を表します。



完了、継続、経験の例を見てみましょう。下線部(黒)が未来の一時点です。

① By then, Sandy will have written her third novel.

- ⇒ その時までには・Sandy は書き終えている・彼女の3番目の小説を。
- その頃までには、Sandy は三作目の小説を書き終えています。
- * will write (書くことになる) では「書き終えている」という意味が出せません。

② In July, Hank will have been dead for two years.

- ⇒ 7月で・Hank はずっと亡くなっていることになる・2年の間。
- 7月で、Hank が亡くなってから2年になります。

③ If I visit London again, I'll have been there four times.

- ⇒ もし私が訪れたら・ロンドンを・再び・私はいることになる・そこに・4回。
- 次回ロンドンを訪れたら、4回目になります。
- * If I visit London again は条件の副詞節なので未来のことを**現在形**で表します。

ちなみに、会話では will の代わりに be going to を使って「be going to have Vp.p.」と言うことがあります。例えば、例文①を「By then, Sandy **is going to have written** her third novel.」と言うことがあります。

●● NOTE 副詞節中での未来完了の表し方

時や条件の副詞節では単純な未来を「現在形」で表しますが (Lesson 131, 134 [NOTE]), 「未来完了」の場合は「**現在完了形**」にします。次の例文の副詞節で「will have read」が「have read」になっている点に注意してください。

④ **You'll be a fan of his when you have read his biography.**

⇒ 君は(未来に)なる・ファンに・彼の・以下の時に・君が読み終えた・彼の伝記を。

→ 彼の伝記を読み終えた時には、君は彼のファンになっているよ。

* when you read になると、「読む時に (=読み終える前に) ファンになる」という意味になってしまいます。

●● VOCABULARY

then

副 その時に、あの時に (* then は名詞ではないが、前置詞 by (…までに) や until (…までずっと) の目的語にすることができる)

dead [ded]

形 死んでいる、亡くなった、枯れた (* die (死ぬ) 及び dying (死にかけている) との違いに注意)

have been to …

慣 …に行った [来た] ことがある (* 「…」には名詞が置かれるが、副詞の there, here, abroad を置く場合は例文③のように to を省略する)

a fan of 独立所有格
[fæn]

名 <独立所有格>のファン (* Lesson 80 ④の a friend of Elvis Presley's の独立所有格も同様)

biography
[baiəgrəfi | -ɔg-]

名 伝記 (名 **autobiography** [ɔ:təbaiəgrafi | -ɔg-] 自伝 * auto は「自らの」という意味)

Lesson 144

👉 can の使い方 : 「能力・可能」「許可」

次は **can** の使い方です。can には大まかに3つの意味があります。

能力・可能	…できる
許可	…してよい
可能性	…があり得る、…する可能性がある

このレッスンでは「能力・可能」と「許可」の意味について学習します。最初は、「…できる」という「能力・可能」の意味です。

① "I can count to ten in German." "Oh, can you?"

⇒ 「僕はできる・数えることが・10まで・ドイツ語で」「へえー・できるの?・君は」
→ 「ドイツ語で10まで数えることができるんだよ」「へえー、そうなの?」

② "I can't thank you enough." "You're very welcome."

⇒ 「私はできない・感謝することが・あなたに・十分には」「どう致しまして」
→ 「お礼の言いようありません」「とんでもないです」

「Can you …?」という疑問文は元来「…できますか?」という「能力・可能」の意味ですが、転じて「…してもらえますか?」という「依頼」の意味にもなります(「依頼」の「Will you …?」(Lesson 141 ③)よりも間接的で丁寧な言い方です)。次の例文の下線部(黒)は「能力・可能」、下線部(赤)は「依頼」の意味です。

③ "Hello? Can you hear me?" "What? Can you speak up?"

⇒ 「もしもし?・できますか?・あなたは・聞くことが・私の声を」「何ですか?
できますか?・あなたは・話すことが・声量を上げて」
→ 「もしもし? 聞こえる?」「何? もう少し大きな声で話してもらえ?」

「依頼」の疑問文の「主語」は you 以外になることもあります。

④ Can somebody translate this into English for me?

⇒ できますか?・誰か・翻訳することが・これを・英語になるように・私のために。
→ 誰か、これを英語に訳してもらえるかな?
* 疑問文で somebody [someone] を使うのは Yes という答えを期待する場合で、anybody [anyone] を使うのは Yes か No かを単純に尋ねる場合です。

次は「許可」の意味です。肯定形は「…してよい」、否定形は「…してはいけない」、疑問形は「…してもかまいませんか?」になります。

⑤ **You can't sit there, Mike—that table is reserved.**

- ⇒ 君はできない・座ることは・そこに・Mike。そのテーブルは予約されている。
 → そこに座っちゃだめよ、Mike。そのテーブルは予約されているんだから。
 * ダッシュ (—) は前後の文が意味的に結びついていることを示します。ここでは後ろの文が前の文の理由を補足的に述べています (because を使うのは大袈裟)。

⑥ **"Can I go out and play now?" "Not until you've done all this."**

- ⇒ 「できる?・僕は・外出する・そして・遊ぶことが・今はもう」「(でき)ない・以下の時までには・君がし終える・全てを・これの」
 → 「もう遊びに行っていいい?」「これを全部やり終えたらね」
 * Not は You can't の略です。until 以下は時の副詞節で未来完了 (will have done) が現在完了 (have done) に置き換えられています (Lesson 143 [NOTE])。until you've done (これをし終えた時まで) を until you do (これをする時まで) にすると「やり終える」という完了の意味が出ません。

●● VOCABULARY

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> count [kaunt]
<input type="checkbox"/> German [dʒɔ:rmən]
<input type="checkbox"/> can't Vb enough
<input type="checkbox"/> You're welcome. [wélkəm]
<input type="checkbox"/> Hello.
<input type="checkbox"/> speak up
<input type="checkbox"/> somebody [sʌmbədi]
<input type="checkbox"/> translate ... into ~ [trænsleɪt, trænz-, trænsleɪt, trænzleɪt]
<input type="checkbox"/> reserve [rɪzə:v]
<input type="checkbox"/> go out and Vb
<input type="checkbox"/> play | <p>動 数を数える、…を数える、重要視される (*例文①は count (up) to... で「…まで順番に数を数える」)</p> <p>名 ドイツ人、ドイツ語 形 ドイツの、ドイツ人の</p> <p>慣 いくらVしても十分ではない [し足りない]</p> <p>慣 (お礼に対する返答として) どういたしまして。 (* very や quite を付けると恐縮の度合いが増す)</p> <p>慣 (電話で) もしもし。</p> <p>動 より大きな声で話す、はっきり話す</p> <p>代 だれか、(ある)人 (同 someone)</p> <p>動 …を～に訳す [翻訳する]、…を～に言い換える
 (名 translation [trænsleɪʃn, trænz-] 翻訳)</p> <p>動 <席・テーブル・部屋・切符など>を予約する
 (同 book 名 reservation [rɪzə:vɛɪʃən] 予約)</p> <p>動 Vしに出かける (同 go out to Vb)</p> <p>動 遊ぶ、試合をする、演奏をする、上映される、<遊び・球技・試合>をする、<楽器>を演奏する、<役を>演じる 名 芝居、競技、プレー</p> |
|--|---|

Lesson 145

👉 can の使い方 : 「可能性」

can は「…する可能性がある」「…があり得る」という「可能性」も表します。

① Never mind. Anyone can make mistakes.

- ⇒ 気にするな。いかなる人も可能性がある・する・ミス。
→ ドンマイ。誰にでもミスはあり得る。

② It can be very windy on top of the mountain.

- ⇒ (天候) はあり得る・とても風が強いことが・頂上では・その山の。
→ 山頂ではとても強い風が吹くことがあります。
* 主語の It は「天候」を表す形式的な主語です (Lesson 167)。

「否定形」は「…する可能性はない」→「…なんてあり得ない」「…のはずがない」になります。

③ It can't be that hard. You're just being lazy.

- ⇒ それはあり得ない・そんなに困難で。君は単に (今は) 怠けているのだ。
→ それがそんなに大変なわけがない。君は単に怠けているだけだ。
* Lesson 148 ①の You can't be her son. の can't も同じ用法です。

「疑問形」は「…があり得ようか」「いったい…だろうか?」という意味です。この意味では、can より **could** の方がよく用いられます。

④ There's the doorbell. Who can it be?

There's the doorbell. Who could it be?

- ⇒ ある・ドアのベルが。誰で・あり得ようか・それは。
→ あっ、(玄関の) ベルだ。いったい誰なんだろう。
* 2番目の文の主語は it (ベルを鳴らした人) で、Who は be 動詞の補語です。

ここまで、can の意味を「能力・可能」「許可」「可能性」という3つに分けて見てきました。最後に、can の意味をまとめておきます。

	肯定形	否定形	疑問形
能力・可能	…できる	…できない	…できますか？
許可	…してよい	…してはいけない	…してよいですか？
可能性	…があり得る	…はあり得ない	…があり得ようか

●● NOTE be 動詞の進行形

例文③の You're just being lazy. では、be 動詞が現在進行形で使われています。be 動詞の現在進行形は「**is [am, are] being**」の形になり、「今は…にしている」という意味で、「いつも」のことではなく「今だけ」のことを表します。単純な現在形と比較してみましょう。

You are lazy. 「君は怠け者だ」 (いつものこと、習慣)

You are being lazy. 「君は今怠けている」 (現在の一時的な状況)

●● VOCABULARY

- Never mind.** [máind]
 - 【慣】 気にするな。ドンマイ。何でもないよ。
 - (同) **Forget it.** * Don't **mind.** とは言わない
- make a mistake** [mistéik]
 - 【動】 ミスをする (* make は「…をする、…を行う」という意味)
- windy** [windi]
 - 【形】 風が強い (【形】 **stormy** 嵐の **rainy** 雨降りの **sunny** 晴天の **cloudy** 曇りの **snowy** 雪の降る)
- on top of** ...
 - 【副】 …の天辺 [頂上] で(は)、…に加えて
- that**
 - 【副】 そんなに、それほど (【副】 **this** こんなに)
- lazy** [léizi]
 - 【形】 怠惰な、無精な
- There's the** ...
 - 【慣】 あっ、<ベル・電話>だ。
- doorbell** [dó:rbel]
 - 【名】 玄関 [戸口] のベル

Lesson 146

👉 may の使い方

may は「許可」と「推量」を表します。may はどちらかと言えばフォーマルなことで、会話よりも文書でよく用いられます。

	肯定形	否定形	疑問形
許可	…してもよい	…してはいけない	…してよいですか？
推量	…かもしれない	…でないかもしれない	—

(注) 許可の疑問形は主語を一人称 (I, we) にします。

(注) 推量は疑問形では使いません。

(注) 疑問形で「祈願」を表す用法もあります (Lesson 91 ③)。

「許可」の may は「**May I** …？」という形でよく用いますが、これは同じく許可を表す「**Can I** …？」(Lesson 144 ⑥) よりへりくだった表現です。

① "May I take your order?" "Yes. Can I have this and this?"

⇒ 「かまいませんか？・私は・受け取って・あなたの注文を」「はい。できますか？・私は・もらうことが・これとこれを」

→ 「注文をお聞きしてもよろしいでしょうか？」「ええ。これとこれをお願いしますか？」

「May I …？」に対する返答は「Yes, you may.」「No, you may not.」とすることができますが、この「you may (not)」は上から目線 [権威的] な言い方で、通常、子供や目下の者に対して用います。次の例文の下線部 (赤) がこれに当たります。

② "May I eat this cake, Mom?" "Yes, you may."

⇒ 「かまわない？・僕は・食べて・このケーキを・ママ」「ええ・あなたはそうしてよい」

→ 「ママ、このケーキ食べてもいいの？」「ええ、いいわよ」

* 子供や目下の者以外には「you can」「you can't」と言った方が無難です。

また、「許可」の may は「規則」や「法律」の文言でよく用いられます。

③ Visitors may not bring food or beverages into the facility.

⇒ 参観者は・いけない・持って来ては・食べ物もしくは飲み物を・施設の中に。

→ 施設内に飲食物を持ち込むことはできません。

「推量」の may は五分五分がそれ以下の確信を表します (日常会話では may よりも might が好まれます。この点については Lesson 152 で解説します)。

④ There may be some room for compromise.

- ⇒ ある・かもしれない・いくらかの余地が・妥協のための。
→ 妥協の余地は幾分あるかもしれません。

⑤ You may not like it, but I'm in charge here.

- ⇒ あなたは・ないかもしれない・気に入って・それが・しかし・私は任されている・
ここにおいて。
→ あなたは気に入らないかもしれませんが、ここの責任者は私です。
* it は後ろに置かれた文 (I'm in charge here) を指します。

「推量」の may[might] は、「可能性」の can (Lesson 145 ①②) と意味が似ていますが、使い方が異なります。may[might] は「日常的な予想」を表し、can は「一般論的な可能性(性質)」を表します。例えば、「今週末は雪が降る可能性がある」は日常的な予想なので、It may [might] snow this weekend. としますが、「ここでは4月に雪が降る可能性がある」は一般論的な可能性(性質)を述べているので、It can snow in April here. とします。

●● VOCABULARY

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> take one's order [ˈɔːrdə] | <input type="checkbox"/> 動 …の注文を取る [受ける] |
| <input type="checkbox"/> Can I have ... ? | <input type="checkbox"/> 慣 …を頂戴できますか? ; …を見せて [教えて] もらえますか? |
| <input type="checkbox"/> visitor [ˈvɪzɪtə] | <input type="checkbox"/> 名 訪問者、訪問客、観光客、参観者、見舞人
(*「客」の名词: customer [ˈkʌstəmə]
商品やサービスの購入客 guest [ɡɛst] 招待客、宿泊客 spectator [ˈspɛkteɪtə] 観客 passenger [ˈpæsnəndʒə] 乗客) |
| <input type="checkbox"/> beverage [ˈbevərɪdʒ] | <input type="checkbox"/> 名 飲み物、飲料 (同 drink) |
| <input type="checkbox"/> facility [fəˈsɪləti] | <input type="checkbox"/> 名 施設、設備 |
| <input type="checkbox"/> room | <input type="checkbox"/> 名 ((不可算) 余地、スペース、空間 ((可算) 部屋 (* 例文④で some room を some rooms にすると「いくつかの部屋」になる)) |
| <input type="checkbox"/> compromise
[ˈkɒmprəmaɪz kɒm-] | <input type="checkbox"/> 名 妥協、譲歩、歩み寄り <input type="checkbox"/> 動 妥協 [譲歩] する |
| <input type="checkbox"/> in charge [ɪnˈtʃɑːdʒ] | <input type="checkbox"/> 副 仕切って、任されて、責任 [担当] 者で |

Lesson 147

👉 must と have to の使い方 : 「義務・必要」

must は「必要・義務」と「断定的推量」を表します。

	肯定形	否定形	疑問形
必要・義務	…しなければ ならない	…してはならない	…しなければ なりませんか?
断定的推量	…にちがいない	(…でないに ちがいない)	—

(注) 「…してはならない」の must not は may not よりも強い言い方です。

(注) 断定的推量の否定形「…でないにちがいない」はあまり用いられません。

このレッスンでは「義務・必要」の使い方を説明します。一般に、この意味の must はかなり堅いフォーマルなことばです。次の例文で確認しましょう。

① In order for them to change, WE must change first.

- ⇒ ためには・彼らが・変わる・「我々」が・なければならぬ・変わる・最初に。
 → **彼らが変わるためには、まず「我々」が変わらねばならない。**
 * for them は to change の意味上の主語。in order to Vb は Lesson 73 ④を参照。
 * WE のように大文字にすると意味が強調され、話す際は強く発音します。

日常会話では、must の代わりに **have to** や **have got to** (通常 've got to に短縮) を用います。must → have to → have got to の順にくだけた言い方になります。

② Mike, we have to wait in line, OK?

Mike, we've got to wait in line, OK?

- ⇒ Mike・私達は・なければならぬ・待つ・列の中で・わかった?
 → **Mike、列に並んで待たないといけないうよ。**
 * got to はよく gotta [gɔ:tə, gɔ:lə] と発音します (但し、上品な言い方ではありません)。

must には「…しなければならなかった」という過去形がないので (Lesson 139 (2))、代わりに、動詞句「have to」の過去形である「had to」を用います (「have got to」を「had got to」とすることはできません)。

③ **Almost all employees had to work overtime every day.**

⇒ ほぼ全ての従業員は・なければならなかった・働く・超過勤務で・毎日。

→ ほとんど全ての従業員が毎日残業をしなければならなかった。

また、「You must …」は「…しなければならない」→「是非…してください」という丁寧な勧誘としても用います（これはさほど堅い言い方ではありません）。

④ **You must drop by the next time you are in town.**

⇒ あなたは・なければならぬ・立ち寄る・次の時には（すなわちその時に）あなたがいる・町に。

→ 今度、町に来た時は、是非立ち寄ってくださいね。

* must の代わりに have to, 've got to を使うとくだけた言い方になります。

* 「the next time ~」は副詞節なので未来のことが現在形 (are) で表現されています。

否定形 **must not** は「…してはならない」という「禁止」の意味になります (may not より強い言い方です)。次の例文で確認しましょう。

⑤ **Even minor complaints must not be ignored.**

⇒ たとえ大したことのない苦情でも・いけません・無視されては。

→ 些細なクレームでも無視してはいけません。

must not は「…しなくてよい」という意味にはならないので注意してください。「…しなくてよい」は **don't have to** や **don't need to** (「…する必要がない」) で表します。また、「…しなければなりませんか?」は「Must + 主語 + 動詞」で表せますが、非常に堅い言い方なので、通常は「**Do(es) + 主語 + have to**」とします。

⑥ **"Do I have to bring anything with me?" "No, you don't have to—just show up."**

⇒ 「私は・なければなりませんか?・持って行く・何かを・私と共に」「いいえ・あなたは(そうする)必要はありません。ただ姿を現してください」

→ 「何か持参しなくてはいけませんか?」「いいえ、その必要はありません。ただ来て頂ければ結構です」

* don't have to の後ろには bring anything (with you) が省略されています。

●● VOCABULARY

- in line** 副 一列 [一直線] になって、列に並んで
- almost all** [ɔ:lmo:st] 形 ほぼ全ての 代 ほぼ全て (形代 **most** 大半(の))
- employee** [emplɔ:i, ɛmplɔ:i] 名 被雇用者、従業員、社員 (名 **employer** 雇用主)
動 **employ** …を雇用する)
- overtime** [oʊvə'taɪm] 副 超過勤務で 形 超過勤務の 名 超過勤務
- drop by** 動 立ち寄る、顔を出す (同 **drop in**)
- the next time** ~ 副 次に〜した時には (* Lesson 131 の表)
- in town** 副 町に (* **in the town** としないのが一般的)
- even** [i:vən] 副 …さえも、…でさえ 形 平らな、均等の
- minor** [maɪnər] 形 小さな、たいしたことのない、深刻でない
- complaint** [kəmpleɪnt] 名 不平、不満、苦情、クレーム
- ignore** [ɪɡnɔ:ɾ] 動 …を無視する、…に耳を貸さない
- bring ... (with 人)** 動 (自分・相手の所へ) …を持って [連れて] 来る / 行く
(* 「第三者の所へ持って [連れて] 行く」は take)
- show up** 動 姿を見せる、現れる、やって来る

⑥ "Do I have to bring anything with me?" "No, you don't."

have to [—] show up.

「～を持って行く・連れて行く」は bring 、「～を持って来る・連れて来る」は take 、「～を無視する・～に耳を貸さない」は ignore 、「～を雇用する」は employ 、「～の苦情・不満・不平」は complaint 、「～の従業員・社員」は employee 、「～の被雇用者」は employer 、「～の均等・平ら」は even 、「～の町」は in town 、「～の次に〜した時には」は the next time 、「～の並んで」は in line 、「～のほぼ全て」は almost all 、「～の姿を見せる・現れる・やって来る」は show up 、「～の連れて行く・連れて来る」は bring 、「～の連れて行く・連れて来る」は take 。

Lesson 148

must の使い方: 「断定的推量」

次は「断定的推量」の must です。これは「きつと…にちがいない(そうとしか考えられない)」という意味で、「**現在**」の事に関して用います(これはさほど堅い言い方ではありません)。

① "You can't be her son—you must be her ..." "Grandson."

- ⇒「君はずがいない・である・彼女の息子。君は違いない・である・彼女の…」
→「彼女の息子さん、なんてことはないよね。きつと彼女の…」
* 「断定的推量」の must と共に用いる動詞は、be 動詞、know、進行形 (be Ving) のような「状態動詞」や「状態を表す形」です。

この意味でも、must の代わりに **have to** や **'ve got to** を用いることがあります。

② There has to be a reason for his sudden departure.

- ⇒あるに違いない・理由が・には・彼の突然の離職。
→彼の突然の離職には何かわけがあるに違いない。
* There is … (…がある) の is に have to が付いた文です。この文は現在形で、主語(「…」)が三人称・単数の reason なので、have to が has to になります。

③ "Bob has been arrested!" "You've got to be kidding!"

- ⇒「Bob が逮捕された!」「あなたは・違いない!・からかっているに」
→「Bob が逮捕された!」「まさか、冗談でしょ!」
* 現在完了形(ここでは has been)は最新情報を伝えるのによく用いられます。
* くだけた会話ではよく 've got to を gotta [gɔ:tə] と発音します。

VOCABULARY

<input type="checkbox"/> grandson [grændsɒn]	名 孫 (名 granddaughter [grændɔ:tər] 孫娘)
<input type="checkbox"/> reason for ... [ri:zɒn]	名 …の理由(* of ではなく for を用いる点に注意)
<input type="checkbox"/> sudden [sʌdn]	形 突然の、急な (副 suddenly 突然に、急に)
<input type="checkbox"/> departure [di:pɑ:tʃər]	名 出発(便)、発車、離職、離脱
<input type="checkbox"/> arrest [ə'rest]	動 …を逮捕[拘束]する 名 逮捕、拘束、拘留
<input type="checkbox"/> You've got to be kidding (me)! [kidɪŋ]	慣 冗談[嘘]でしょう! (同 You must be kidding (me)!; You're kidding (me)!)

Lesson 149

👉 shall と should の使い方

shall は主として、一人称の主語 (I か we) と共に、次の疑問文で用います。

Shall I ...? 私…しましょうか?

Shall we ...? 私達…しましょうか?

これらは、話し手が行動を決めかねて、相手に「どうしましょうか?」と尋ねる場合の表現です。(英)では一般的な表現ですが、(米)では特に改まった言い方をする場合にしか用いません。例文を見てみましょう。

① "Shall I help you with your luggage?" "Thanks."

⇒ 「しましょうか? ・私は・助けることを・あなたを・がある状態で・あなたの荷物」
「ありがとう」

→ 「お荷物、手伝いましょうか?」「すみません」

② When shall we meet? What about the day after tomorrow?

⇒ いつ・しましょうか? ・私達は・会うことを。どうでしょうか? ・明後日で。

→ いつ会いましょうか? 明後日はいかがですか?

shall の過去形は **should** ですが、過去を表す使い方はめったにしません。should は通常、「…してしかるべきだ」という **現在・未来** のことを表します。この「…してしかるべきだ」は、「…すべきだ」(助言)と「…するはずだ」(推量)という2つの意味を表します。

	肯定形	否定形	疑問形
助言	…すべきだ …した方がよい	…すべきでない …しない方がよい	…すべきですか? …した方がよいですか?
推量	…するはずだ	…しないはずだ	—

まずは「助言」の例文を見てみましょう。

③ **You should take an umbrella with you, just in case.**

- ⇒ あなたは・べきだ・持って行く・傘を・あなたと一緒に・念のために。
→ 念のために、傘を持って行った方がいいよ。

④ **"Maybe we shouldn't be together," said Cathy.**

- ⇒ 「たぶん・私達は・べきではない・いる・一緒に」と言った・Cathyは。
→ 「私達、別れた方がいいかもね」と Cathyは言った。
* 「主語 + say」を文末に置く場合は、「say + 主語」の語順が一般的です(但し、主語が「代名詞」の場合は「主語 + say」の語順が一般的です)。

⑤ **"What's he like?" "Well, he's—how should I put it?—odd."**

- ⇒ 「どんな・彼は・ようですか?」「えっと・彼は・どのように・べきだろうか・私が・言葉にする・それを・変わっている」
→ 「彼はどんな人なの?」「そうね... 何て言えばいいのか... 変人だよ」
* 2番目の文のダッシュ(—)は話しの間(ま)を表しています。

次は「推量」の例文です。⑥は現在のことを、⑦は未来のことを述べています。

⑥ **He should be in by now, but I haven't seen him.**

- ⇒ 彼は・はずだ・いる・中に・今はもう・しかし・私は(今まで)目にしていない・彼を。
→ 彼はもう出社しているはずなんですが、まだ見かけませんね。

⑦ **He's on another line. It shouldn't take long. Would you like to hold?**

- ⇒ 彼はいる・つながって・別の電話に。それは・ないはずだ・要することが・長い時間を。あなたは望みますか?・そのままにしていることを。
→ 彼は別の電話に出ています。そんなに時間はかからないと思いますが、このままお待ちになりますか?

help 人 with 物事

動 <人>の<物事>を手助けする [手伝う]
 (*「with…」は「…をもった」という意味で、「<物事>をもった状態の<人>を助ける」と考える。「彼の宿題を手伝う」なら help him with his homework になる)

luggage [láɡɪdʒ]

名 (旅行の) 荷物 (*カバンやスーツケースなど)

What about … ?

慣 …はいかがですか? (**同** **How about …?**)

the day after tomorrow

名 明後日 **副** 明後日に (**名 副** **the day before yesterday** 一昨日 (に))

take … (with 人)

動 …を持って [連れて] 行く (*「with 人」は必ずしも必要ではないが、take には複数の意味があるので「with 人」をつけることでこの意味に限定できる。また、take は「話し手/聞き手のいる所以外」へ持って [連れて] 行く場合に用い、「話し手/聞き手のいる所」へ持って [連れて] 行く場合は bring を用いる)

just in case [kéis]

副 念のため、万が一に備えて

together [təˈɡeðə]

副 一緒に (* be together で「一緒にいる」)

What is/are … like?

慣 …とはどんな人[もの]ですか? (* like は前置詞でその目的語は What)

Well

間 ((話のつなぎとして)) ええと、う〜ん、そうですねえ、((Well? で相手の発言を促し)) それで? どうなの?

How should I put it?

慣 どう言えば [表現すれば] いいかなあ?

odd [ɒd]

形 変わった、変な、奇妙な

be in

動 (人が) 在宅 [入社] している、(書類が) 提出されている、(食べ物) が 旬である

by now

副 現在はずでに、今ではもう

on another line

副 別の電話に出て (* on は接触・繋がりを表す)

take long

動 長い時間がかかる (* long = a long time)

Would you like to hold?

慣 (電話で) このままお待ちになりますか? (* hold は hold the line (電話を切らずに待つ) という意味)

Lesson 150

👉 ought to と had better の使い方

前のレッスンでは should について学習しましたが、(英) では should の代わりに **ought to** を用いることがあります((米) では ought to はまれです)。肯定形と否定形はそれぞれ次のようになります。

肯定形	否定形
ought to Vb	ought not to Vb

(注)「疑問形」で用いることはほとんどないので省略しています。

ought to は通常「肯定形」で用います。should のもつ「助言」と「推量」の両方を表すことができますが、たいてい「助言」の意味で用いられます。

① You ought to review the figures prior to the conference.

⇒ 君は・べきだ・見直す・数字を・の前に・会議。

→ 会議の前に数字を見直しておいた方がよい。

should や ought to と同様に「…した方がよい」と和訳できる口語的な表現に **had better** があります。否定形(と疑問形)での not の位置に注意してください。

肯定形	否定形	疑問形
had better Vb 'd better Vb	had better not Vb 'd better <u>not</u> Vb	Hadn't 主語 better Vb

* この表現は主に口語で用いられるので、had はふつう「d」に短縮されます。また、くだけた言い方では「d」を発音しないことがあります。

* 疑問形では「Vしたほうがよくないですか?」という否定形にするのが一般的です。

had better (not) は「…した方(しない方)がよい。さもないと不都合が生じる」という「忠告」「警告」の表現で、should や ought to よりも強い言い方です。特に、二人称主語の「You'd better (not)」は脅迫のことばとしても用いられるので、他人に対して軽々しく使わないように注意してください。次の2つの例文で使い方を確認しましょう。

② I don't mean to scare you, but you'd better be prepared.

⇒ 私はつもりはない・怖がらせる・君を・しかし・君はした方がいい・覚悟することを。
→ 脅かすつもりはないけど、覚悟はしておいた方がいいよ。

③ For the time being, we'd better not tell anybody about this.

⇒ 当面は・我々はしない方がよい・話すことを・いかなる人にも・これについて。
→ 当面はこのことについて口外しない方がいい。
* we'd better not を we'd not better にしないよう注意してください。

●● VOCABULARY

- review** [ri:vju:] (動) …を見直す、…を再検討[再検証]する、…を批評する [名] 見直し、再検討、再検証、批評[書評、レビュー]、(試験に備えた) おさらい
- figure** [fi:gjə] [fi:gə] (名) 数字、統計、データ、形、形状、人物
- prior to** [praɪə] (前) …に先立ち、…の前に (同 **before**)
- conference**
[kɒnfərəns] [kɒn-] (名) (大規模で公式的な) 会議、協議会、学会、(少人数の) カンファレンス
- mean to Vb** [mi:n] (動) Vするつもりである、Vすることを意図する
- scare** [skeə] (動) …を怖がらせる、…をおどす [名] 恐怖、怯え
- prepared** [prɪpeəd] (形) 準備[用意]ができていて、覚悟[心構え]ができていて (動 **prepare** (…を) 準備[用意]する、…に準備[用意]をさせる [名] **preparation** [prɪpəreɪʃən] 準備、用意、心構え)
- for the time being** (副) 当面は、差し当たり (同 **for now**)
- tell ... about ~** (動) …に～について話す (*「…」は主に人)
- anybody**
[ɛnɪbɒdi, -bɒdi] [-bɒdi, -bɒdi] (代) いかなる人、どんな人 (同 **anyone**)

Chapter 14

単語・熟語数：75

文法のテーマ：助動詞（過去形と完了形）

前の Chapter では will, can, must, may など、助動詞の「現在形」について学習しましたが、この Chapter では would, could, might など、助動詞の「過去形」について学びます。動詞の場合、現在形は現在のことを表し、過去形は過去のことを表しますが、助動詞の場合、一般に過去形は現在形の助動詞がもつ意味を遠回しに「控え目に、へりくだって」述べるだけで、過去を表すためには助動詞を「完了形」（助動詞 + have + 過去分詞）にする必要があります。

Lesson 151

👉 助動詞の過去形

次の表は、過去形をもつ助動詞の現在形と過去形を示したものです。

現在形	過去形
will ('ll)	would ('d)
can	could
may	might

(注) shall にも should という過去形がありますが、shall の過去形としての should はめったに用いられないので省略しています。

まずは、can の「過去形」である **could** の例文を見てみましょう。

① It was so funny I couldn't help laughing.

⇒ それはとてもおかしかった・私ができなかったほど・抑止する[避ける]ことが・笑うことを。

➔ おかしくて、笑いをこらえられなかったよ。

* funny の後ろに that が省略されています (この副詞節 (so ... that) については Lesson 138 を参照)。

この文の couldn't は「できなかった」という「過去」を表しています。

次に、will の「過去形」である **would** の例文を見てみましょう。

② Mr. Lee promised Pat that he would always love her.

⇒ Lee さんは約束した・Pat に・以下のことを・彼がつもりだと・常に・愛する・彼女を。

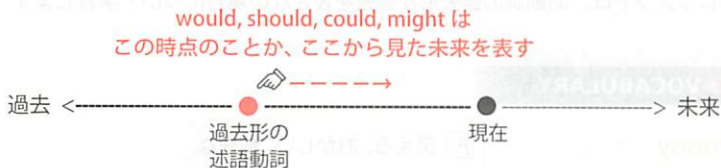
➔ Lee さんは Pat に変わらぬ愛を約束した。

* この文の that 節は第4文型 (SVO'O) の直接目的語 (O) に当たる名詞節です。

この would は「過去」(promised の時点) の意志を表しています。しかし、一般的には、助動詞の過去形 (would, could, might など) が過去を表すためには、次の条件が必要となります。

- (1) 述語動詞が過去形である文の名詞 [副詞、形容詞] 節で用いられている。
 (2) 過去を表す副詞や文脈があり、過去の事を述べているのが明白である。

例文①と②は表の(1)(①は副詞節中、②は名詞節中)に該当します。各例文の下線部(黒)が「過去形の述語動詞」です。(1)における「過去形の助動詞」は「過去形の述語動詞」と同じ時点かその時点から見た未来を表します。



次も(1)のケースです(述語動詞は thought, might は名詞節で使われている)。

③ **Ah, there you are. I thought I might find you here.**

- ⇒ あっ・そこに君はいる。私は思った・私が・かもしれないと・見つける・君を・ここで。
 → あっ、いたいた。ここに君がいるんじゃないかと思ったんだ。
 * thought の後ろに that が省略されています。
 * might は thought の時点から見た未来を表しています。

続いて、(2)のケースを見てみましょう。次の例文は過去を示す副詞句 In those days があるので、could は「できた」という「過去」に解釈されます(In those days がなければ、could は「できるだろう」という「現在」に解釈されます)。

④ **In those days you could buy a loaf of bread for 14 cents.**

- ⇒ 当時は・人はできた・買うことが・一塊を・パンの・14セントで。
 → 当時一斤(500g)のパンが14セントで買ったんだ。
 * ここでの you は「世間一般人」を指しています。

次の例文の would は「過去」を表しています。過去を示す副詞はありませんが、would が「過去の習慣」を述べるのによく用いられること、on Sundays と often が「習慣」を示していることから、「過去の習慣」を表していると判断されます。

⑤ On Sundays we would often go for a family drive.

⇒ 日曜日には・私達はしたものだ・しばしば・出かけることを・家族のドライブに。

→ 日曜日にはよく家族でドライブに出かけたものです。

* 動詞の過去形は過去の習慣を表すことができるので (Lesson 24 ④⑤)、この文を On Sundays we often went for a family drive. とすることもできます。

次のレッスンでは、助動詞の過去形が過去を表さない場合について学習します。

●● VOCABULARY

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> funny [fʌni] | 形 笑える、おかしい、愉快的 |
| <input type="checkbox"/> can't help Ving | 慣 Vするのを抑え[避け]られない、Vしてしまう
(同 can't help but Vb * helpが「…を抑止[回避]する」という意味になるのは can [can't] と共に用いる場合だけ。Lesson 64 ①参照) |
| <input type="checkbox"/> promise ... that ~
[prə'mis prəm-] | 動 …に～ということを約束する (* 第4文型。
R21 参照) |
| <input type="checkbox"/> There you are. | 慣 いたいた。(君は) こんな所にいたんだ。 |
| <input type="checkbox"/> in those days | 副 その当時は、あの頃は |
| <input type="checkbox"/> buy ... for ~ | 動 …を～ (の金額) で買う |
| <input type="checkbox"/> loaf [ləʊf] | 名 (パンの) 一塊 [一斤] (* スライスする前の塊) |
| <input type="checkbox"/> would Vb | 慣 (当時は) Vしたものだ (* Vbは通常、動作動詞。
しばしば頻度の副詞 (often, always など) を伴う) |
| <input type="checkbox"/> go for a ... | 動 …に出かける (* 「…」の名詞は drive (ドライブ)、
walk (散歩)、drink (飲酒)、swim (泳ぎ) など) |

Lesson 152

👉 might と could の使い方 : 「推量」

may は「…してもよい」(許可)と「…かもしれない」(推量)の2つの意味で使いますが (Lesson 146)、過去形の **might** は基本的に「推量」の意味で使います。might は may と同様、「**現在**」や「**未来**」のことを述べます。元々、might は may を控え目にしたことで、may より低い可能性を表していましたが、現代英語では可能性の差はなく、**口語では might が、文語では may が好まれます。**

① **There might be something wrong with this PC.**

There may be something wrong with this PC.

⇒ あるのかもしれない・何かが・正常でない・このパソコンには。

➔ このパソコンは何か不具合があるのかもしれない。

* might と may は共に「現在」の推量を表しています。

② **I might be a few minutes late, but I'll be there.**

I may be a few minutes late, but I'll be there.

⇒ 私はいるかもしれない・数分・遅れて・しかし・私はいることになる・そちらに。

➔ 何分か遅れるかもしれないけど、ちゃんとそっちに行くから。

* might と may は共に「未来」の推量を表しています。

* a few minutes は late を修飾しています。

「…かもしれない」という might (及び may) とほぼ同じ意味なのが、「…もあり得るだろう」という意味の **could** です。could は might と同様、会話でよく用いられます。次の例では、could、might、may が相互に置き換え可能です (例文①と②でも could を用いることができます)。

③ **Don't open the attached file—it could be a virus.**

Don't open the attached file—it might be a virus.

Don't open the attached file—it may be a virus.

⇒ 開けないで・その添付されたファイルを・それは・であり得る / であるかもしれない・ウイルス。

➔ 添付ファイルを開けないで。ウイルスかもしれない。

●● VOCABULARY

There is something wrong with ...

慣 …はどこかおかしい [正常でない] 所がある。
(* wrong は something を修飾。例文①では is に助動詞が付いて be に変わっている)

PC [pi:si:]

名 パソコン (* personal computer の略語)

a few [fju:]

形 ((可算名詞を修飾して)) 少数の

数詞+時間単位 late

副 <数詞+時間単位>遅れて (*「数詞+時間単位」が副詞の late を修飾している。例文②では a few minutes late (数分遅れて) が動詞の be (いる) を修飾。The train arrived 10 minutes late. (電車は 10 分遅れて到着した) なら、10 minutes late が動詞 arrived を修飾)

I'll be there.

慣 (これから) そちらへ行きます。(* I'll be right there. なら「直ちにそちらへ行きます」)

attach [ətætʃ]

動 …を取り [貼り] 付ける、…を添付する

virus [vaɪərəs]

名 ウイルス (*発音に注意)

③ "Could I speak to Ted Smith?" "Certainly. Could I have your name, please?"

- ⇒ 「できるでしょうか・私は・話すことが・Ted Smithと」「かしこまりました。できるでしょうか・私は・頂戴することが・あなたの名前を・どうか」
→ 「Ted Smith さんにお取り次ぎ願えますか?」「かしこまりました。お名前をお伺いできますでしょうか?」

could はまた、「…できるであろう」と「現在」や「未来」のことを想像・空想して言う場合にも用います。次の例文を見てください。

④ Steve, this could be served in any restaurant!

- ⇒ Steve・これはできるであろう・出されることが・いかなるレストランでも。
→ Steve、これだったら、どんなレストランでも出せるよ。

この例では、Steve が現実にレストランで料理を出すことはないので、「現実」を表す can ではなく、「想像・空想」を表す could を用いています。次の例文の「一頭の馬を食べられる」も想像・空想です。

⑤ "I'm so hungry I could eat a horse!" "Me too."

- ⇒ 「私はとてもお腹が減っている・私ができるであろうほど・食べることが・一頭の馬を」「私もです」
→ 「腹べこで死にそう」「私も」
* 「so… that 節」の that が省略されています。

また、「できないであろう」「なり得ないだろう」という **couldn't** と「より～に」という **比較級** を一緒に用いると、「今より～にはできない [なり得ない] だろう」→ 「**今、この上なく～である**」という意味になります。例文で確認しましょう。

⑥ "How do you feel now?" "I couldn't be happier."

⇒「どのように・あなたは感じていますか?・今」「私はなり得ないでしょう・これ以上幸せには」

→「今の気分は?」「最高に幸せです」

* couldn't be worse なら「これ以上悪くはなり得ないだろう」→「最悪だ」に、
couldn't agree more なら「これ以上に賛成[同意]できないだろう」→「全く同感だ」「大賛成だ」になります。

●● VOCABULARY

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> eat out | 動 外食をする (* out は「外で」という副詞) |
| <input type="checkbox"/> Why not? | 慣 (提案・依頼に対して) そうしよう。いいですよ。 |
| <input type="checkbox"/> fill ... out | 動 <用紙・カードなど>に記入する、<空所>を埋める (* out は「完全に」という意味) |
| <input type="checkbox"/> form [fɔ:rm] | 名 記入用紙、用紙、ひな型 動 ...を形成する |
| <input type="checkbox"/> Certainly. [sɜ:rtɪnli] | 慣 承知しました。かしこまりました。 |
| <input type="checkbox"/> Could I have ... ? | 慣 ...を(見せて、教えて)頂けますか? («Can I have ...?» (Lesson 146 ①) のへりくだった言い方) |
| <input type="checkbox"/> serve [sɜ:rv] | 動 <食事・飲み物>を出す、給仕をする |
| <input type="checkbox"/> hungry [hʌŋgri] | 形 空腹な、飢えた (名 hunger [hʌŋgə] 空腹、飢え) |
| <input type="checkbox"/> Me too. | 慣 ((肯定文を受けて)) 私もそう[同じ]です。 |
| <input type="checkbox"/> How do you feel? | 慣 どんな気持ち[気分]ですか? ; どう思いますか? |

Lesson 154

👉 be able to の使い方

助動詞の can (「できる」という意味) は 動詞句の **be able to** に言い換えが可能ですが、「現在形の文」や「物が主語の文」では can を用いるのが一般的で、be able to は特に次のような場合に用いられます。

- (1) 助動詞に「できる」という意味を持たせる場合
- (2) **to** 不定詞に「できる」という意味を持たせる場合
- (3) 現在完了形で「今までずっと…できた」と言う場合
- (4) **could** を用いると誤解が生じかねない場合

まず、(1) の「助動詞 + be able to」の例文を見てみましょう。

① If you eat now, you won't be able to eat dinner.

- ⇒ もし君が食べれば・今・君はできなくなる・食べることが・夕食を。
- 今食べたら、晩ご飯が食べられなくなるわよ。
- * 下線部を can't にすると「食べてはいけない」という不許可にも聞こえます。

次は、(1) の「助動詞 + be able to」と (2) の「to + be able to」の例文です。

② You must be able to speak English for this job.

You have to be able to speak English for this job.

- ⇒ あなたはできなければならない・話すことが・英語を・この仕事のためには。
- この仕事をするには、英語が話せなければなりません。
- * mustの方が have to よりフォーマルな言い方です。

次は、(3) の現在完了形 (**have [has] been able to**) の例文です。

③ I haven't been able to sleep well for the past few days.

- ⇒ 私は現在までできていない・眠ることが・よく・過去の数日間。
- ここ何日か、よく眠れていないんです。

(4) は、「(過去に) …できた」と言う場合に could を使うと「…できるだろう」という「現在」や「未来」のことに誤解されかねないので、**was [were] able to** を使うという場合です。例えば、次の例文で could を使うと「できるだろうか」と言っているように聞こえるので、「できただろうか」と過去を明確にするために **was able to** が使われています (Lesson 75 ① もこれと同じケースです)。

④ **I wonder whether I was able to make myself understood.**

- ⇒ 私は知りたい・以下かどうかを・私ができただか・させることが・私自身が・理解されるように。
- 私が言いたかったことは理解してもらえただろうか。

但し、否定形の **couldn't** は一般に「…できなかつた」という「過去」を表します。よって、次の2つの例文は同じ意味になります。

⑤ **He wasn't able to fall asleep due to the pain in his back.**

He couldn't fall asleep due to the pain in his back.

- ⇒ 彼はできなかつた・なることが・眠った(状態)に・が原因で・痛み・彼の背中の。
- 彼は背中の痛みが原因で眠ることができなかつた。

●● VOCABULARY

- | | |
|---|---|
| <p><input type="checkbox"/> for the past …</p> <p><input type="checkbox"/> I wonder whether ~ .
[wʌndər hwédər wédə]</p> <p><input type="checkbox"/> make oneself understood
[ʌndərstúd]</p> <p><input type="checkbox"/> asleep [əslɪ:p]</p> <p><input type="checkbox"/> due to [dju: djú:]</p> <p><input type="checkbox"/> pain [peɪn]</p> <p><input type="checkbox"/> back</p> | <p>副 この(過去) …の間 (同 for the last …)</p> <p>慣 ~かどうかと考える [疑問に思う、迷う]。
(同 I wonder if ~.)</p> <p>動 自分の意思を相手に伝える、言いたいことを相手にわかってもらう (* make は第5文型の用法で understood は過去分詞。同じ構造の表現に make oneself heard (自分の声を相手に届ける) がある)</p> <p>形 眠っている (* fall asleep は R15 を参照)</p> <p>前 …が原因 [理由] で (同 because of)</p> <p>名 痛み (同 ache [eɪk])</p> <p>名 背中、腰 (* 首 (neck) と尻 (bottom) の間)</p> |
|---|---|

Lesson 155

👉 would の使い方 : 「控え目」「想像」

would (短縮形は 'd) は過去の文脈では「過去」を表しますが (Lesson 151 ②⑤)、通常は「現在」か「未来」を表します。would は主に次の場合に用います。

- (1) 意見や依頼を控え目に [へりくだって] 述べる場合。
- (2) 現在や未来のことを想像 [空想] する場合。

これは、can の過去形である could が、控え目な [へりくだった] 言い方や、想像 [空想] した言い方になるのと同じです。

では、(1) の「控え目な [へりくだった] 言い方」の例を見てみましょう。次の例文の「Will you …?」は「依頼」の表現ですが (Lesson 141 ③)、

① "Will you get the door? It must be Fred." "OK, I'll get it."

- ⇒ 「してくれますか? ・あなたは ・出ることを ・ドアに。それは違いない ・Fred であるに」「了解。僕は出ます ・それに」
- ➔ 「玄関に出てくれる? きっと Fred だわ」「了解、僕が出よう」
- * 「断定的推量」の must (Lesson 148 ①) と「とっさの意志」の I'll (Lesson 141 ①) が使われている点にも注意しましょう。

これを「Would you」にすると、控え目な [へりくだった] 言い方になります。

② "Would you get the door? It must be Fred." "OK, I'll get it."

- ➔ 「玄関に出てください。きっと Fred だわ」「了解、僕が出るよ」

同様に、「Do you mind」を「Would you mind」にすると、控え目な [へりくだった] 言い方になります。

③ "Would you mind waiting outside?" "Not at all."

- ⇒ 「あなたは気になさるでしょうか? ・待つことを ・外で」「(気に)しません ・全く」
- ➔ 「外でお待ち頂いてもよろしいでしょうか?」「全然かまいません」

次に、(2)の「想像・空想」の例を見てみましょう。次の例文は「What is is …?」（何が…ですか?）を「何が…だろうか?」という想像に変えたものです。

④ What would be a good anniversary present for Betty?

⇒ 何が・であろうか?・良い記念日プレゼント・Betty への。

→ Betty への記念日の贈り物は何かいいだろうか。

次の⑤は「彼」(he) のことを、⑥は「私」(I) のことを想像しています。

⑤ There's no use talking to Joe—he wouldn't listen.

⇒ ある・無の役立ちが・話すことに・Joe と。彼は耳を貸さないだろう。

→ Joe と話をしたって無駄よ。耳を貸さないだろうから。

* he won't listen なら「彼が耳を貸すことはない」という断定的な予想になります。

⑥ I would not invest in gold at the current price.

⇒ 私ならしないだろうに・投資することは・金に・現在の価格で。

→ 私なら現在の価格で金に投資することはしません。

* 短縮しない would not は短縮形の wouldn't よりも否定の語気が強くなります。さらに語気を強める場合は NOT と大文字で表記し NOT を強く発音します。

●● VOCABULARY

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> get | 動 (口語) <電話・ドア>に出る (同 answer) |
| <input type="checkbox"/> outside [aʊtsaɪd, aʊtsaɪd] | 副 外(側)に[で] 前 …の外(側)に[で] |
| <input type="checkbox"/> Not at all. | 慣 いいえ少しも。とんでもない。全然(そんなことはない)。(※強い打ち消しの表現) |
| <input type="checkbox"/> anniversary [ænəvɜːrsəri] | 名 記念日、記念祭、…周年 |
| <input type="checkbox"/> There is no use (in) Ving. [jʊːs] | 慣 ((口語) Vしても無駄だ[うまくいかない] (同 It is no use Ving.)) |
| <input type="checkbox"/> invest (in …) [ɪnvest] | 動 (…に) 投資をする (名 investment 投資) |
| <input type="checkbox"/> at | 前 <程度・割合>で、<値段>で、<年齢>で |
| <input type="checkbox"/> current [kʌrənt kʌr-] | 形 現在の、現行の (副 currently 現在、目下) |

Lesson 156

👉 would を用いた慣用表現

would (短縮形は'd) を「好み」を表す動詞 like、love、prefer と共に用いると、「発話時点の願望」を表すことになります。would のない「日頃の好み」と比較してみましょう。

日頃の「好み」	発話時点の「願望」
like ... (…を好む)	would like ... (…が欲しい)
like to Vb (Vすることを好む)	would like to Vb (Vしたい)
like ... to Vb (…がVすることを好む)	would like ... to Vb (…にVして欲しい)
love to Vb (Vするのが大好きだ)	would love to Vb (是非Vしたい)
prefer ... (…をより好む)	would prefer ... (…の方を望む)
prefer to Vb (Vする方をより好む)	would prefer to Vb (Vする方を望む)

それでは、「発話時点の願望」を例文で確認しましょう(「would like to Vb」は Lesson 113⑤と Lesson 149⑦で、「would love to Vb」は Lesson 141④で確認)。

① "Which would you like, beef or fish?" "Beef, please."

- ⇒「どちらを・あなたは望みますか?・牛肉ですか?・魚ですか?」「牛肉を・お願い」
 →「牛肉か魚のどちらになさいますか?」「牛肉をお願いします」
 * Which do you like にすると「(常日頃は)どちらが好きですか?」になります。
 * 「would like ...」は Lesson 70①と Lesson 90①でも使われています。

② Would you like me to make a copy of this?

- ⇒あなたは望みますか?・私が・行くのを・コピーを・これの。
 →これを一部コピーいたしましょうか?
 * 「would like ... to Vb」は Lesson 49④でも使われています。

③ "Coffee or tea?" "I'd prefer coffee, thanks."

- ⇒「コーヒーですか?・お茶ですか?」「私はより欲しい・コーヒーが・ありがとう」
 →「コーヒーにしますか、お茶にしますか?」「コーヒーの方がいいです。どうも」
 * I prefer coffee にすると「私はコーヒーの方が好きだ」になります。

「**would** ['d] **rather** Vb」(むしろVする方がよい) という表現も、発話時点の願望を表します。この表現の否定形(むしろVしない方がよい)は「**would** ['d] **rather not** Vb」になります。notの位置に注意してください。

④ "Please have a seat." "No, thank you. I'd rather stand."

- ⇒ 「どうぞ・持ってください・席を」「いいえ・結構です。私はむしろ望む・立つのを」
 → 「どうぞ座ってください」「いえ、けっこうです。立ってる方がいいので」
 * I'd prefer to stand. と言うこともできます。

⑤ "How much do you weigh?" "I'm sorry, I'd rather not say."

- ⇒ 「どれだけ・あなたは重さがありますか?」「すみません・私はむしろ望む・言わないことを」
 → 「体重はどのくらいですか?」「すみません、それはちょっと…」
 * I'd rather not Vb は I don't want to Vb をへりくだった言い方にしたものです。

●● VOCABULARY

beef [bi:f]

名 ((不可算)) 牛肉 (**名** **pork** 豚肉 **chicken** 鶏肉 **turkey** 七面鳥の肉 **mutton** [mʌtn] 羊肉 **lamb** [læm] 子羊の肉 * 「肉」には特定の形がないので不可算名詞。chicken や fish は「肉」の意味では不可算名詞だが、「個体」を指す場合は可算名詞)

copy [kɑpi | kɔpi]

名 コピー、複写 **動** …をコピー [複製] する

have a seat [si:t]

動 着席する、腰掛ける (**同** **take a seat**)

No, thank you.

慣 いいえ結構です。 (**同** **No, thanks.**)

weigh [wei]

動 重さ [体重] が…ある (**名** **weight** 重さ、体重)

Lesson 157

助動詞の完了形 : should の場合

「should + 動詞の原形」は「…すべきだ」「…するはずだ」という意味で、現在や未来のことを表します (Lesson 149)。should には過去形がないので、should の後ろを完了形 (**have + 過去分詞**) にして、(A)「…すべきだった」、(B)「…したはずだ」という過去の意味にします。

(A)は「…すべきだったのに(そうしなかった)」(肯定文)、「…すべきでなかったのに(そうした)」(否定文)という意味で、残念な気持ち、後悔、非難を表します。

① You're right. I should've given it more thought.

⇒ 君は正しい。私は・べきだった・与える・それに・より多くの考えを。

➔ 君の言う通りだ。僕はもっとよく考えるべきだったよ。

* 会話ではよく肯定形の should have を should've と略します。should の代わりに ought to (Lesson 150) を用いて ought to have given とすることもできます。

* given は第4文型の用法で、it が O、more thought が O です。

② What should I have said differently?

⇒ 何を・私は・べきだったのか・言う・それとは異なって。

➔ じゃあ私はなんて言えば良かったの？

③ "I have something for you." "Oh, you shouldn't have!"

⇒ 「僕は持っている・ある物を・君のための」「おやまあ・あなたは・そうすべきではなかったのに」

➔ 「これ、つまらない物なんですが」「まあ、そんなことしないでいいのに」

* you shouldn't have gotten something for me の下線部が明白なので省略されています。

次に、(B)の「…したはずだ」の例文を見てみましょう。

④ I mailed it on Friday, so it should've gotten there on Monday.

⇒ 私は郵送した・それを・金曜に・だから・それははずだ・着いた・あちらに・月曜に。

➔ 金曜日に郵送したので、月曜日に向こうに着いているはずですよ。

このように、should は動詞を完了形 (have Vp.p.) にして過去の意味にしますが、同じことが次の表の (主に「推量」「可能性」の) 助動詞にも当てはまります。

主な助動詞の完了形	意味
must have Vp.p.	Vしたに違いない
may have Vp.p. might have Vp.p.	Vしたかもしれない
may not have Vp.p. might not have Vp.p.	Vしなかったかもしれない
could have Vp.p.	Vできただろう / Vした可能性もあろう
can't have Vp.p.	Vしたはずがない
couldn't have Vp.p.	Vできなかっただろう / Vしたはずがなからう
would have Vp.p.	Vしたであろうに
wouldn't have Vp.p.	Vしなかったであろうに
should have Vp.p.	Vすべきだったのに / Vしたはずだ
shouldn't have Vp.p.	Vすべきではなかったのに

* 「could have Vp.p.」は可能ですが「can have Vp.p.」にはできません。

● VOCABULARY

- You're right.**
- give ... (a) thought** [05:t]
- differently** [difərəntli]
- You shouldn't have!**
- mail** [meil]
- get there**
- 慣** あなたの言うとおりです。ごもっとも。
- 動** …について考える (*「…に考えを与える」が直訳)
- 副** そうではなく、それとは違い (**同** otherwise)
- 慣** そんなことしてくれなくてもよかったのに。
(*贈り物や親切などに恐縮して言う表現)
- 動** ((米)) …を郵送する、…に […を] 電子メールで送る **名** 郵便物、電子メール (**同** ((英)) **post** …を郵送する)
- 動** (人・物が) そこへ [相手の所に] 到着する
(* arrive there よりも口語的)

Lesson 158

👉 助動詞の完了形 : must, may, might の場合

このレッスンでは、推量の must、may、might の「完了形」について学習します。

must の完了形「**must have Vp.p.**」は「**V した [V だった] に違いない**」「**きっと V したのだろう**」という過去の推量を表します。

① "You **must have had** a nightmare, Bill." "I sure did."

⇒ 「あなたは・に違いない・経験した・悪い夢を・Bill」「私は確かにそうした」

→ 「きっと悪い夢を見たのね、Bill」「ああ、確かに」

* did は had a nightmare を置き換えた代動詞です。

may 及び might の完了形「**may have Vp.p.**」「**might have Vp.p.**」は「**V した [V だった] かもしれない**」という過去の推量を表します。

② Now that I think about it, I **may have been** wrong.

Now that I think about it, I **might have been** wrong.

⇒ 今・すなわちその時・私は考える・それについて・私は・かもしれない・間違っていた。

→ 今思うと、私が間違っていたのかもしれない。

* 1 番目の文は文語的、2 番目の文は口語的です。

③ As you **may or may not have heard**, Bill has announced his resignation.

⇒ 以下だが・あなたは・かもしれない・もしくは・でないかもしれない・聞いた・Bill は発表した (ばかりだ)・彼の辞任を。

→ お聞きになったかどうかわかりませんが、Bill が辞任を発表しました。

* may have heard or may not have heard の下線部 (重複部分) が省略されています。

* may を might にして might or might not have heard とすることもできます。

* has announced という現在完了形は「結果」の用法で、それがつい先頃起こったことでその影響が現在に及んでいることを示唆しています。

これら3つの例は全て「事実がわからないこと」についての推測ですが、事実がわかっている「**事実とは異なること**」を「…だったかもしれない」と想像する場合は「**might (not) have Vp.p.**」を用い、「**may (not) have Vp.p.**」を用いませぬ。

④ You idiot—you might have died!

⇒ お前・ばか者！ お前は・かもしれないのだ！・(あの時) 死んでいた。

→ このバカ！ お前、死んでたかもしれないぞ！

* 「死ななかった」という事実を承知で、事実と異なることを想像しています。

●● NOTE 助動詞の完了形のもう一つの意味

助動詞の完了形 (= 助動詞 + have Vp.p.) は「過去」を表すと説明しましたが、「have Vp.p.」という形が示すように「**現在完了**」を表すこともあります。例えば、例文③では may or may not have heard を「聞いた」と過去に解釈していますが、「現在までに聞いている」という「**現在完了の経験**」に解釈することもできます。また、Lesson 157 ④ は過去を表す on Monday があるので should've gotten there は過去を表しますが、by now であれば現在完了を表すこととなります。

⑤ I mailed it on Friday, so it should've gotten there by now.

⇒ 私は郵送した・それを・金曜日に・だから・それは・はずだ・着いている・あちらに・現在までに。

→ 金曜日に郵送したので、今頃はもう向こうに着いているはずです。

●● VOCABULARY

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> nightmare
[naɪtmɛə] | 名 恐ろしい夢、悪夢、悪夢のような出来事 (* 「夢 [悪夢] を見る」の「見る」は see ではなく have) |
| <input type="checkbox"/> sure [ʃʊə] | 副 ((米)) ((口語)) 確かに、本当に |
| <input type="checkbox"/> now that ~ | 副 ~である今、今~してきて、今では~なので |
| <input type="checkbox"/> wrong [rɒŋ] | 形 間違った、誤った、不適切な (反 right 正しい) |
| <input type="checkbox"/> As ~, ... | 慣 (これを・これは) ~だが...だ。(* as は目的格 / 主格の関係代名詞で、先行詞は「…」の文全体) |
| <input type="checkbox"/> may or may not | 助 ...かもしれないしそうでないかもしれない |
| <input type="checkbox"/> announce
[əˈnaʊns] | 動 ...を発表 [公表、告知] する (名 announcement [əˈnaʊnsmənt] 発表、公表) |
| <input type="checkbox"/> resignation [ˌrɛzɪɡneɪʃn] | 名 辞任、辞職 (動 resign [ˌrɛzɪn] 辞任 [辞職] する) |
| <input type="checkbox"/> idiot [ɪdɪət] | 名 ((口語)) ばか者、あほ、まぬけ |

Lesson 159

👉 助動詞の完了形 : could, can't, couldn't の場合

could は通常、現在や未来のことを「…できるだろう」「…があり得るだろう」と言うのに用います。よって、過去に「…できただろう」「…があり得ただろう」と言う場合は、完了形の「**could have [could've] Vp.p.**」を用います (can have Vp.p. は用いません)。次の文は「…できたであろう」の例です。

① "You could've at least called me." "I was going to."

⇒ 「君はできたであろうに・少なくとも・電話することが・僕に」「私はそうするつもりだった」

→ 「少なくとも僕に電話ぐらいできただろうに」「そうするつもりだったんだけど」

* was going to の後ろには call you が省略されています。

「…があり得ただろう」という意味では、「may [might] have Vp.p.」とほぼ同じ意味になります。次の下線部は Lesson 158 ④ の下線部とほぼ同じ意味です。

② Do you realize that you could have died?

⇒ 君はわかっていますか？・以下のことを・君があり得る・死んでいたことが。

→ ひょっとしたら君は死んでいたかもしれないってこと、わかってる？

否定形の「**couldn't have Vp.p.**」「**can't have Vp.p.**」は「過去」の行為を指して「…したはずがない(だろう)」になります。

③ Betty couldn't have said that! She is too polite.

Betty can't have said that! She is too polite.

⇒ Betty が・はずがない・言った・それを。彼女はあまりに礼儀正しい。

→ Betty がそんなことを言ったはずがない。彼女はとても礼儀正しいから。

* 2番目の文は She is **too polite to** have said that. の下線部が省略されています。too を使うことで下線部を省略できます (very ではこれができません)。

「couldn't Vb + 比較級」は「これ以上…にはなり得ないだろう」→「今、極めて…である」という意味ですが (Lesson 153 ㉔)、これを過去にシフトさせた「couldn't have Vp.p. + 比較級」は「あれ以上に…にはなり得なかったであろう」→「この上なく [極めて] …だった」という意味になります。

④ "How was your vacation?" "Couldn't have been better."

⇒「どう・でしたか?・あなたの休暇は」「なり得なかつただろう・あれ以上良きは」
→「休暇はどうだった?」「最高だったよ」

* 逆に「最悪だった」は Couldn't have been worse. (あれ以上に悪くはなり得なかつただろう) と言います。主語の It が省略されていますが、会話では、その場の状況から言わなくてもわかる It や I などの主語がよく省略されます。

●● VOCABULARY

- at least** [lɪst] 副 少なくとも
- was [were] going to Vb** 動 Vするつもりだったが (*実現しなかつたことを述べるのによく用いる)
- realize** [ri(:)əlaɪz] 動 ~がわかっている、…を実感する、…を実現する
- polite** [pəlaɪt] 形 礼儀正しい、丁寧な、丁寧な
- vacation** [veɪkəʃən, və-] 名 ((米) 休暇 ((英) 大学・法廷などの) 休み (* 祝日・宗教上の休日は ((米)) ((英)) 共に holiday を用いる)

Lesson 160

👉 助動詞の完了形 : would の場合

Lesson 155 では、would が現在や未来の事柄に関する想像や空想を表すことを学習しましたが、これを過去の想像 [空想] に変える場合は、would を完了形にします。肯定形の「**would [d] have Vp.p.**」「**would've Vp.p.**」は「**V したであろう(に)**」という意味になり、否定形の「**would not [wouldn't] have Vp.p.**」は「**V しなかったであろう(に)**」という意味になります。例文で確認しましょう。

① Don't mention it. You'd have done the same.

- ⇒ 言わないでください・それ(=礼の言葉)を。あなたはしていたでしょう・同じ事を。
- 礼なんていいですよ。あなただって私と同じ事をしていましたよ。
- * 'd は would の短縮形です。would have Vp.p. は会話ではよく「d have Vp.p.」もしくは「would've Vp.p.」(例文④)に短縮されます。

② You could've told me this in advance. I wouldn't have said anything to anyone.

- ⇒ 君はできただろうに・言うことが・私に・これを・前もって。私は言わなかっただろうに・いかなる事も・いかなる人にも。
- 事前に話してくれればよかったのに。誰にも何もしゃべりはしなかったわよ。
- * could've told の用法は Lesson 159 ① の could've called と同じです。

③ Without your assistance we would never have been able to overcome our difficulties.

- ⇒ なしには・あなたの支援・我々は決してできなかつただろう・乗り越えることが・我々の困難を。
- あなたの支援なしには、我々は決して困難を乗り越えることはできませんでした。
- * 「would have been able to Vb = could have Vp.p.」なので、would never have been able to overcome は could never have overcome に言い換えが可能です。

また、「…を望む」という意味の「would like」を完了形の「would have liked」にすると、「…を望んだ(が実現しなかった)」という過去の意味になります。

④ I would've liked a larger refrigerator, though.

⇒ 私は望んだのだが・より大きな冷蔵庫を・しかしながら。

→ 本当はもっと大きい冷蔵庫が欲しかったんだけどね。

* 've は have の短縮形です。

このように、「would(n't) have Vp.p.」は、過去のことを推測したり、過去の事実
に反することを想像・空想したりするのに用います。そしてこれは「過去形の助
動詞 + have Vp.p.」の全てに当てはまります。

他方、「過去形の助動詞 + Vb」は現在・未来のことを推測したり、現在の事実
に反することを想像・空想するのに用いました。

次の Chapter では、この Chapter で学習した「過去形の助動詞 + Vb」「過去形の
助動詞 + have Vp.p.」を「if 節」と組み合わせた「仮定法」について学習します。

●● VOCABULARY

Don't mention it.

[mɛnʃən]

慣 (お礼やお詫びのことばに対し) 礼なんていいよ。いっていいって。(※文脈によっては「その話はしないでくれ」にもなる)

the same

代 同じ事 **形** 同じ (※ the を付けて用いる)

in advance

[ædvəns | ədvɑ:ns]

副 前もって、事前に、前金で

without

前 …なしに(は)、…が(い)なければ

assistance [ə'sistəns]

名 支援、援助、補助 (**動** assist …を支援する)

overcome [əʊvə'kʌm]

動 <困難・障害など>を克服する [乗り越える]
(※過去形は overcame、過去分詞は overcome)

difficulty [dɪfɪkəlti]

名 難しさ、困難、障害

refrigerator [rɪfrɪdʒə'reɪtə]

名 冷蔵庫 (**同** ((口語)) **fridge** [frɪdʒ])

though [ðəʊ]

副 ((文末で用い)) ((口語)) しかしながら、でも
接 ~だけれども (※副詞で用いる場合は例文④のように前にカンマを置くことが多い)

Chapter 15

単語・熟語数：52

文法のテーマ：仮定法

事実に反することや非現実的なことを「仮に～だとしたら、…ということになるだろう」と想像・空想したり、「～であればいいのになぁ」と願ったりする場合は仮定法を用います。仮定法は、へりくだって尋ねたり頼んだりする場合にも用います。仮定法のif節は、現在・未来のことを「過去形」で、過去のことを「過去完了形」で表し、前者を「仮定法過去」、後者を「仮定法過去完了」と呼びます。